

男子 神戸国際大付高V

女子は武庫川女大5連覇

ハンドボール

県総合選手権

ハンドボールの兵庫県総合選手権最終日は28日、神戸市須磨区のグリーニアリーナ神戸で男女の準決勝と決勝があり、男子は神戸国際大付高が2年ぶり4度目の頂点に

立った。女子は武庫川女大が5年連続5度目の優勝を果たした。男子決勝は神戸国際大付高が素早いパス回しから得点を重ね、25-21でララバルサを振り切った。女子決勝は武庫川女大のカウンター攻撃が機能し、29-19で夙川高を圧倒した。

神戸国際大付高

積極的に攻め

2年ぶり栄冠

【男子】準決勝 神戸国際大付高20-16HC神戸、ララバルサ24-19ララバルサ
神戸国際大付高25-12ララバルサ
【女子】準決勝 武庫川高34-10明石高、夙川女大21-15Y.O.夙川高
武庫川 29-1415-1217-19 夙川高

男子決勝は、強気を買っていた神戸国際大付高に勝利の女神がほほ笑んだ。エース梶山を中心に速めからでも積極的にシ

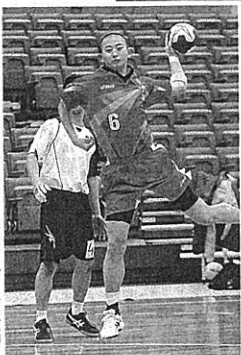
ュートを放って社会人中心のクラブチームを退けた。

押され気味だった前半から一転、後半は人数をかけて相手パスを奪う「守りから速攻」が機能した。両サイドが素早く駆け上るカウンターのつなげてリードを広げた。

優勝を狙った21日の近畿高校新人大会では、ミスへの恐れからシュートを狙わず、「打てるところでパスばかり」（向井監督）と弱気な姿勢が目立ち、6位に終わった。

反省を生かし、「とにかくシュートを打とう」（梶山）と、各選手が役割にとられずゴールを狙った。仲井主将は気持ちの面で恐れなければやれると自信になったと手応えをつかんだ様子だった。（宮崎真彦）

【武庫川女大・木下真歩主将】危なげなく連覇相手のミスを誘い込み、ボールを奪ってからの速攻で自分らの展開に持ち込めた。ただ持ち味のハイドワークの面で力を出し切れてない部分が出た。春のリーグ戦までに修正したい



男子決勝 神戸国際大付高「ララバルサ」前半、神戸国際大付高の西田がシュートを放つ